

令和6年度看護師交流会

日時：7月31日（水）9:30～13:00

会場：岩手県看護研修センター 3階研修ホール ハイブリッド開催

テーマ「命と向き合う看護を熱く語ろうー看護実践者の心にエネルギー充電！ー」

内容：①講演「患者の傍らで自分に誇れる看護をしていますか」

講師：岩手県立中央病院 看護師長/救急看護認定看護師 佐藤加代子氏

②グループワーク「講義を受けて、心からわき出ることを共有し、明日からの看護を考える」

参加者：28名（委員5名含む、非会員1名） 会場18名、オンライン10名

看護師職能Iでは昨年度と同様、看護実践者を対象とした交流会を実施しました。講演の中ではグループワークの時間が設けられ、他病院の方との意見交換、情報交換も行われました。受講者がもっとも関心を寄せていたのは「痛み」に対するアセスメントでした。講師の体験談をもとに、患者の痛みの訴えに「痛み＝痛み止め」が方程式になっていないかとの問いに、その通りだなと実感しました。患者の訴えに耳を傾け細やかに問診を行い、原因や対処法、痛み止めの効果などについて分かりやすく説明することの必要性を再認識していました。そして、忙しさの中で業務中心となっていたのではないかと、改めて患者さんに寄り添える看護を行っていききたいなど、自分の行っている看護や「看護観」を振り返る機会となりました。

また、講師の看護観に激震を与えたという、日野原重明著「ナースに送る35のメッセージ」という本を紹介して頂きました。母の死を看取る子供の症例においては、家族が看取るということについて、看護師がどう関わっていくかを考える機会となり、胸にぐっと熱いものがこみ上げてきました。『いい看護がしたい』という思いとともに、明日からの看護の課題を明確に感じることができ、心にエネルギーチャージできる素敵な交流会となりました。（看護師職能委員I 中村由紀）

